

A50

大正七年十月印刷

露國「ノーロヤ、ジーズ」新聞主筆
「シラインフェルド」氏著（一九一〇年）

滿洲ニ於ケル露國ノ事業

外務省政務局



34

REEL No. 調-0037



本
書
ハ
露
人
カ
始
テ
滿
洲
ニ
侵
入
シ
タル
以
後
露
滿
貿
易
關
係
ノ
發
展
、
鐵
道
布
設
計
畫
及
其
沿
革
、
滿
洲
占
領
及
侵
略
政
策
、
日
露
戰
争
ノ
原
因
、
「
ポ
ー
ツ
マ
ス
」
講
和
條
約
ノ
結
果
、
露
國
經
營
ノ
狀
態
、
日
露
ノ
關
係
、
露
清
兩
國
人
ノ
關
係
等
ニ
關
シ
關
シ
豐
富
ナル
材
料
ニ
基
キ
詳
細
敘
述
シ
タル
モノ
ニ
シ
テ
露
國
滿
洲
經
營
ノ
沿
革
及
事
蹟
ヲ
悉
シ
政
治
上
及
經
濟
上
ノ
參
考
ト
シ
テ
裨
益
ス
ル
處
尠
カラ
ザ
ル
ヘ
キ
ヲ
以
テ
翻
譯
印
刷
ニ
附
セ
リ

緒 言

本
書
ハ
露
人
カ
始
テ
滿
洲
ニ
侵
入
シ
タル
以
後
露
滿
貿
易
關
係
ノ
發
展
、
鐵
道
布
設
計
畫
及
其
沿
革
、
滿
洲
占
領
及
侵
略
政
策
、
日
露
戰
争
ノ
原
因
、
「
ポ
ー
ツ
マ
ス
」
講
和
條
約
ノ
結
果
、
露
國
經
營
ノ
狀
態
、
日
露
ノ
關
係
、
露
清
兩
國
人
ノ
關
係
等
ニ
關
シ
關
シ
豐
富
ナル
材
料
ニ
基
キ
詳
細
敘
述
シ
タル
モノ
ニ
シ
テ
露
國
滿
洲
經
營
ノ
沿
革
及
事
蹟
ヲ
悉
シ
政
治
上
及
經
濟
上
ノ
參
考
ト
シ
テ
裨
益
ス
ル
處
尠
カラ
ザ
ル
ヘ
キ
ヲ
以
テ
翻
譯
印
刷
ニ
附
セ
リ

外務省
政 34
圖書館
41.7.26

REEL No. 調-0037

本書ハ大正二年中故大使館一等通譯官福田直彦君ノ翻譯ニ係ル舊稿ニシテ當時當局ノ有益ナル參考資料タリシモノ時勢一變セル今日古ナ温ネテ新ヲ知ルノ一助トモ信シ茲ニ剞劂ニ付ス所以ナリ讀者之ヲ諒セヨ

緒言

本書ハ露人カ始テ滿洲ニ侵入シタル以後露滿貿易關係ノ發展、鐵道布設計畫及其沿革、滿洲占領及侵略政策、日露戰爭ノ原因、「ポーツマス」講和條約ノ結果、露國經營ノ狀態、日露ノ關係、露清兩國人ノ關係等ニ關シ關シ豐富ナル材料ニ基キ詳細敘述シタルモノニシテ露國滿洲經營ノ沿革及事蹟ヲ悉シ政治上及經濟上ノ參考トシテ裨益スル處尠カラサルヘキヲ以テ翻譯印刷ニ附セリ

緒論

凡ソ大國民カ殖民政策ノ緒ニ就クヤ其原因ハ多ク之レアルヘシト雖モ之ヲ要スルニ一ハ無形上ノ動機ニ依ルモノトハ物質上ノ理由ニ基クモノトノ二種トス所謂無形上ノ動機ハ冒險的意志、好奇心若ハ進取ノ氣質等ニ依ルモノニシテ又物質上ノ理由トハ邦土ノ狹隘ヲ告クルコト、從事スヘキ勞動ノ缺乏ナルコト、資本豊富ニシテ之カ使用ノ途ヲ要スルコト若ハ產物ノ剩餘ヲ生シ其販路ヲ他邦ニ求ムルノ要アルコト等ヲ云フ近世ノ殖民ハ概ネ第二ノ原因ニ基クモノナリ然ルニ往昔地理學者若ハ冒險的探検者例之「コロンブス」ノ如キハ無形上ノ發動ニ指導セラレ新地方ヲ發見シテ以テ殖民ノ基礎ヲ築メタリ而シテ露國ノ「ゴザツク」兵カ現實ノ必要モナク專ラ自己ノ冒險ニ任セ西伯利ノ豁谷ヲ跋渉シ遠ク太平洋岸ニ達シタルカ如キハ之ヲ第一因ノ種類ニ屬スルモノトスルモ不可ナカラシ然レトモ其事蹟タル頗ル明晰ヲ缺クモノアルヲ以テ本書ハ斯ノ如キ現象如何ヲ研究セントスルモノニアラス唯其實事トシテ之ヲ記載スルニ止メントス、古來「ゴザツク」族ハ冒險的武勇ハ往々我國人ノ意志ヲ動カシ單ニ之カ功績ヲ追想シテ後日之ニ名義ヲ附スルヲ常例トセリ即チ「ゴザツク」兵ノ西伯利遠征ニ對シテモ露國カ東邦ニ向テ侵行スルハ文明の歴史上ノ任務ニシテ往昔亞細亞人カ歐洲ニ向テ爲シタル襲撃ヲ將來ニ抑止セントスルモノナリト辯明セリ、這ノ辯明ハ頗ル其當ヲ得タルモノト云ハサルヲ得ス蓋シ露國ハ新領土ヲ求ムルノ何等理由ナク殊ニ西伯利ノ如キ厄塞不毛ノ地ヲ要スルノ理ナケレハナリ露國ハ今日ニ於テモ邦土ノ狹隘ヲ訴フルノ餘地ナシ何トナレハ我版圖ハ肥沃ノ原野ニ富ミ其人口ニ對スル創合ハ一人ニ付八平方露里ニ該當スレハナリ又從事スヘキ勞動ノ缺乏ハ如何ト云フニ是レ比較的問題ニシテ我國人ハ實際窮困ノ状態ニ在ルハ事實ナレトモ是レ從事スヘキ業務ナキカ故ニアラスシテ我國到ル處天然ノ富源アリト雖モ之カ啓發ニ從事スルモノ少キカ爲ナリ尙國民資金ノ多寡ニ至リテハ殆ト論スル迄モナク露國ハ久シク外債ヲ負擔シ今ヤ九十億ノ巨額ニ達セントシ殊ニ鐵業ノ三分ノ一ハ外人ノ資本ニ屬シ佛國ノミニテモ既ニ二十億ヲ注入シ居ルモノニシテ此等ノ事實ヲ綜合スルトキハ全露西亞ハ獨、英、佛、白ノ殖民地ナリト評

言スルモ敢テ不可ナカラシカ

斯ル状態ニ在ルヲ以テ露國カ領土ヲ極東ニ求メントスルハ甚タ辯解ニ苦ム處ナリ然レトモ最近ニ至リ露國ハ領土ニアラザルモ少クモ新市場ヲ他邦ニ求ムルノ點ニ於テ聊カ辯解ノ理由ヲ有スルニ至レリ何ツヤ即チ十九世紀ノ末葉露國ハ工業保護政策ヲ施行シ専ラ工業家ヲ庇護シタルノ結果製作品ノ剩餘ヲ來シ之カ販路ヲ外國ニ求ムルノ必要ヲ生シタリ例之鐵物業、砂糖業、鑛鐵業、石油業、煙草業ノ如キハ長足ノ進歩ヲ顯ハシ其產品ハ內國消費者ノ需用ヲ充タシ尙多大ノ剩餘ヲ見ルニ至レリ然レトモ極東ニ於テ露國品ノ販路ヲ求ムルハ邦土ノ占領ヲ促カスノ理由ト爲スヘカラス蓋シ他ノ工業國ノ例ニ徵スルモ彼等ハ平和的ニ自國產品ノ販路ヲ世界ニ擴張シ居レハナリ加之當時露國ハ極東ニ極力何等領土ヲ占領スルノ必要ヲ認メザリシノミナラス太平洋岸ニ於ケル自國ノ領土ニ對シテスラモ之ヲ處理スルノ資力モナク能力モナク適オラモ有セザリシナリ故ニ當時露國カ勘察加半島ヲ放棄シ「アラスカ」ヲ讓渡シ「ニコラエウスカ」ノ防備ヲ解除シ「サハリン」島ヲ四徒ノ殖民地トシタルコト(而カモ囚徒一人ニ付一ケ年千五百留ヲ費セリ)等ニ鑑ルトキハ滿洲ニ對スル露國當初ノ目的ハ「ゴザツク」兵ノ冒險的動作ニ依リ滿洲カ土壤ヲ接スル隣邦ト爲リ而カモ貿易ヲ開始スルニ至リタルヲ以テ彼此兩者間ニ平和的關係ヲ持續セントスルノ外何等格別ノ意志ナカリシヤ言フ埃タスシテ明ナリ

若シ夫レ「ゴザツク」兵「デジネフ」及「ネウエルスキ」艦長ノ功績若ハ「ムラウイエフ」將軍ノ黑龍江遠征等ニ至リテハ露國民ノ自負心ヲ喚起シ精神上ノ愉快ヲ感セシメタルハ論ヲ俟タスト雖モ實事上之カ必要アリシヤ否ヤハ聊疑問ナキ能ハサルナリ然レトモ滿洲カ露國產物ノ輸入地タルコト、滿洲港カ滿洲產物ノ外國輸出地點タルコト、黑龍江地方カ滿洲穀類及畜類ノ供給地タルコト等ノ事實ニ徵スルトキハ今日ニ至リテハ吾人ハ滿洲カ露國ニ對シテ重大ナル經濟上ノ利益關係ヲ有スルヲトテ斷言スルニ躊躇セザルナリ

滿洲カ我國ノ爲メ政治上ノ利益ヲクシテ經濟上ノ利益ヲアルノ事例ハ歴史ニ依リ證明スル所ナリ斷シテ偶々露國カ進ノ商業的利便ニ政治的關係ヲ聯結シタルノ結果ハ見事ニ失敗ヲ重ネタルモ之レト同時ニ滿洲ニ於ケル露國ノ經濟的關係ハ依然勝

利ニ歸シタル以テ蔽フヘカヲサルノ事實ナリトス
 滿洲ニ於ケル露國ノ經濟上ノ問題ヲ解決スルハ實ニ本書ノ主眼トスル處タリト雖モ露國ノ極東侵略政策カ如何ニ平和的經營ニ妨害ヲ加ヘタルカラ説明センカ爲ニハ政治的行動ノ沿革ヲ叙述スルノ必要アルヲ以テ吾人ハ茲ニ聊カ之カ顛末ヲ附記スルコトト爲セリ

著者誌

事件年代表

年次	月日	事件
六一六		滿洲ニ關スル最初ノ報知
六一〇		露國人ノ滿洲渡來
六五〇		松花江上ノ初航行
六五四		「ネルチンスク」城ノ創立
六八三		露人ヲ黑龍江岸ヨリ放逐スルノ清帝勅令
六八七		「アルバテン」城ノ陷落
六八九	八月二十七日	「ネルチンスキー」條約
七二七	八月二十日	「プリンスキー」條約
七五〇		後貝加爾地方農業狀況
八五〇	八月一日	黑龍江口ニ露國國旗ノ掲揚
八五八	五月十六日	愛理條約
八六〇	六月一日	天津條約
八六一	十一月二日	北京條約
八八一	二月十二日	黑龍江ニ於ケル採金業ノ開始
八八四		彼得堡條約
		沿黑龍江總督府ノ設置

九〇一	九〇二	九〇三	九〇四	九〇五	九〇六	九〇七	九〇八	九〇九	九一〇	九一一	九一二	九一三	九一四	九一五	九一六	九一七	九一八	九一九	九二〇	
末	始	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
五月二十六日	七月一日	一月二十七日	八月二十三日	九月二十四日	秋	五月二日	六月二十三日	十一月一日	冬	冬	始	春	十一月六日							

伊藤公使彼得堡ニ來ル
日英同盟締結
露兵滿洲撤回ニ關スル露清條約
虎疫流行
「ペンブラーゾフ」ノ到着
太守設置
東清鐵道運轉開始
日露戰爭
「ポーツマス」講和條約
戒嚴令撤廢
總領事館設置
哈爾濱ニ商業會議所設置
滿洲ヲ露國居留地及内地市場ニ分離スル公文
清國稅關ノ設置
露國ノ行政制度施行ニ對シ各國領事ノ抗議及
滿洲穀物ノ歐洲輸出
清人及外國人ノ哈爾濱市會議員選舉ニ對スル「ボイコット」
市參事會ヲ開議
相互信用銀行ノ開始

八九一	八九二	八九三	八九四	八九五	八九六	八九七	八九八	八九九	九〇〇	九〇一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二月十二日	夏	四月五日	五月	夏	八月二十七日	〃	十二月	三月十五日	三月十八日	五月三十日

島嶼里鐵道起工式
松花江ニ於ケル汽船航路
黑龍江岸鐵道計劃地域調査及
日清戰爭
下關條約
戴冠式ノ際莫斯科ニ於テ李鴻章トノ談判
支那ト同盟條約
鐵道租借條約
鐵道線路調査
露國艦隊ノ旅順港寄港
遼東半島租借契約
旅順港ニ露國國旗掲揚
鐵道設計決定ノ爲メ「ケルベール」渡來
技師「ユーゴウキチ」一行現在ノ哈爾濱ヲ創設シタル地點ヘ到着
第二ノ租借條約
朝鮮ニ於ケル日本ノ特殊權利ノ認定
英國トノ鐵道協商
團匪ノ暴動、北京陷落、滿洲占領
北清事件始末ニ關スル各國協商

九〇九	三月一日
九〇九	春
九〇九	四月二十七日
九〇九	六月十八日
九〇九	七月十四日
九〇九	九月十三日
九〇九	十月十三日
九〇九	末
九〇九	一月
九〇九	二月

陸路及海路國境ニ於ケル自由貿易閉鎖
 蒙古ヨリ露國外交官吏ノ放逐
 地方行政ニ對シ支那ノ監督ニ關スル條約
 松花江ニ支那稅關ノ設置
 支那兵ノ露國汽船襲撃
 獨逸人ノ露國豫審裁判官及警官侮辱
 伊藤公遣難
 「ノックス」ノ鐵道中立ノ提議否認
 防毅令及愛運鐵道布設ニ關スル露國ノ抗議
 露國ノ張家口恰克圖鐵道布設提案

要領拔摘 (譯者誌)

第一章 一

露人カ滿洲ニ渡來セシ初期○「ネルチンスク」城ノ創立○「アルパダン」城ノ陥落○「ネルチンクス」條約○黑龍江口ノ占領○愛理條約○天津條約○北京條約○黑龍江ニ於ケル採金業ノ開始○聖彼得堡條約○露滿貿易ノ初期○松花江上航業ノ開始

第二章 一五

烏蘇里鐵道ノ起工式○西伯利鐵道ノ黑龍江岸布設區ノ變更○莫斯科ニ於ケル李鴻章ト露國官憲ノ談判○東清鐵道租借條約○露國艦隊ノ旅順口寄港○遼東半島租借條約○南滿支線布設條約○清國ニ關スル英露協商○團匪ノ暴動、北京陷落○露國ノ滿洲占領○滿洲還附協約○伊藤侯ノ露京渡來○「ペンブラフ」ノ活動○太守府設置○朝鮮ニ關スル日露談判○日露戰爭「ポーツマス」講和條約

第三章 三六

東清鐵道布設及經營○南滿鐵道ノ布設○東清鐵道布設費及營業成績

第四章 四四

露滿貿易ノ發展○露清通商貿易ニ關スル統計